

Title	2014年度『ベスト・プレゼンテーション賞』選考結果
Sub Title	Best presentation award
Author	
Publisher	三田図書館・情報学会
Publication year	2014
Jtitle	Library and information science No.72 (2014.) ,p.130- 130
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00003152-00000072-0130

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2014 年度 『ベスト・プレゼンテーション賞』 選考結果

ベスト・プレゼンテーション賞は、研究大会における口頭発表の中から、優れた発表者を選び表彰するものです。

発表者は、口頭発表では、決められた時間の中で、研究の内容を正確に伝え、また、聞き手にわかりやすいよう細部まで行き届いた配慮をし、説明する必要があります。こうしたプレゼンテーションに対する意識を高めること、さらにその技術の向上を目指してこの賞を設けました。

2014 年度の対象者は学生としての所属を明示した登壇発表者（大学院生など）とし、研究内容とプレゼンテーション技法の両方の評価に基づく投票を行いました。なお、2007 年度から 2011 年度までは発表者全員を対象とし、発表の内容ではなく、プレゼンテーション技法を評価の対象としました。

この賞の受賞者は、研究大会の参加者の投票によって選ばれます。今回は 50 票の投票があり、以下の発表が最多の 19 票を獲得しました。

2014 年度ベスト・プレゼンテーション賞受賞者

長田 咲（慶應義塾大学大学院）

発表題目：電車内における情報メディア利用の実態：10 年間の推移

得票の主な理由は、内容・データがわかりやすく伝えられていた、声が大きくはっきりしていてわかりやすかった、質問への回答が適切だった、などでした。受賞した発表スライドの PDF 版を学会ウェブサイトで公開しています。